第11回 新津市中学校少年の主張大会

少年の主張大会

山﨑範子さん

狩谷綾弥さん

上村唯史君

さきごろ、新津第五中学校を会場に少年の主張大会が行われました。この大会は、市内の中学生が日頃考えている清新で建設的な意見を発表する場として設けられています。11回目を迎えた今年は、各中学校から選出された13名が身近な出来事や体験を通して感じたことをテーマに熱弁をふるいました。

今号では、紙面の都合上、入賞者の発表文のみをご紹介します。

○市長賞

母から学んだこと

小川牧子（金津中3年）

私は、小学校四年生のときに、母を病気で亡くしました。あれからもう六年になります。

初めのうちは、母がいない悲しさと、さみしさで、まわりのことなど全く見えませんでした。しかし、六年の月日が経過した今、物事がようやく落ち着いて考えられるようになりました。そして、あることに気付いたのです。

それは、母の仕事がどんなに大変なものだったか、ということです。家中のそうじや洗たく、食事の用意とあとしまつ、私たち子供の世話、そして家族一人一人への気くばりなど。もし私にやれといわれたら、気が遠くなるほどたくさんの仕事です。母は、それを一人でやっていたわけです。しかも、母は中学校の教師をしていたのですから、毎日の大変さは、計りしれないほどのものだったのではないでしょうか。

母の亡き後、その仕事を一挙に引き受けたのは、父と、もうすぐ八十歳になる祖母でした。父は、小学校の教師なので、帰りがいつも遅くなります。でも、帰ってきてから、部屋のそうじや、食後の皿洗いなどをしてくれています。祖母は、いつも一生懸命に、食事を作ってくれたり、洗たくをしてくれます。こんな父と祖母を見て私は、父と祖母への感謝の気持ちがわき、これらを全部一人でやっていた母の苦労が、ようやく分かるようになってきました。

しかし、こんなことを傍観者のようにいっている私は、何をやっていたというのでしょうか。朝起きるのが遅い兄でさえ、ゴミを捨てる日の朝は、少し早く起きるようにして、自分の仕事としてきちんとがんばっています。また父が、「今日は会議で遅くなるから」といって出かけた日は、兄は父の仕事をだまってやっていたのです。

それにくらべ、私は家族のための仕事を、何もやっていませんでした。今までは、ほんの少し皿洗いをやっただけで、いい気になっていたのです。その上、手伝いをしたからと、何か物をねだることさえありました。時々、父や祖母に「もう大人なんだから、家の手伝いもしなさい」と注意されることもありました。それでも私は、全然いうことを聞かず、口答えばかりしていました。

しかし私にも、それなりの言い分があります。私が何も手伝いをしなかったのは、私と同じ年の子が、ほとんどやっていないことを、なぜ私だけがやらなければならないのか、と思い、それがすごくいやだったのです。

そんな時でした。普段、病気などしたことのない祖母が、かぜをこじらせて寝込んでしまったのです。私は、祖母のかわりに食事を作ったり、そうじをしなくてはならなくなったのです。それは、不慣れな私には、とてもつらく苦しいことでした。途中で投げ出してしまったこともありました。しかし、そんな苦しさの中で毎日やっていくうちに、みんなのためにやれたという自信を持つようになりました。喜びさえ感じるようになりました。それと同時に、母が疲れた体を癒す暇もなくしていた毎日の家事が、どんなに大変だったかを理解し、そのことを考えることもできるようになったのです。

小学校四年生のころは、ただ悩むことしかできなかったけれど、中学三年生になった今は、いろいろなことができるようになりました。父の手伝いも、祖母の手助けも、母がやっていた仕事の半分くらいを、私もやれる、という自信をもつことができるようになりました。

清水良太君

母の死から私が学んだことは、母の仕事の大変さや、母の苦労だけでなく、もっと大事な、家族の大切さだったような気がします。家族というものは、一人一人が本当に大切な存在であるにもかかわらず、普段の生活の中では、そのことに全く気付かないでいます。家族一人一人の代償を求めない協力がなければ、家族というものは、成り立っていかないのではないでしょうか。そんなかけがえのないものだと、私は強く感じました。

これからは、素直な気持ちで、家族のみんなを助け、そして助けられ、明るい生活を築いていきたいと思います。そして、本当の意味の家族になれるように、家族の一員として、生きていきたいと思っています。

小川牧子さん

磯野　優さん

福田慎行君

斎藤知子さん

○市議会議長賞

喫煙者に思うこと

吉田直美（小合中3年）

タバコの煙。あの臭いと息苦しさを好まない人は、どれほど居るのでしょうか？　私は、小さい頃から、あのタバコの臭いと煙がたまらなくいやでした。車の中でタバコを吸われると、日頃から嫌っている臭いと息苦しさで、車よいしやすい私は、よくそういった気分の悪さを味わいます。他の人と話していても、数人が、私と同じことを言っていました。つまり、タバコ嫌いな人たちにとって、近くで喫煙されることは迷惑にあたいします。しかし、それとは全く反対にタバコを好む人も、数多く居ます。おそらくみなさん一人一人の近辺にも、タバコ好きな人の存在があると思います。私の周りでも、すぐ頭に浮かぶほどタバコを吸う人が何人も居ます。私は、そういった人達がタバコを好む。そのことに対しては、さしたる問題はないと思います。ただそれは、他人に迷惑をかけず、しっかりと自分の健康を考えていればです。

他人に迷惑だと思われるような喫煙者。今までみなさんそんな人に出会ったことはありませんか？私は先日、とてもイヤな事を体験しました。あの日は、陸上の通信大会標準記録突破会へ参加し、その帰りはワンマンの電車でした。狭い電車の中。他のお客さんと、私達記録会に参加した中学生でごった返していました。そんな中に途中の駅から乗ってきた四、五十代の一人の男性がいました。その人はどうやらビールを飲んでいたようです。記録会は午前で終了したのでその時はちょうどお昼時ぐらいだったと思います。そんな時間からビールを飲んでいたその人は、こんどは満員電車でタバコを吸い始めました。目の前には、しっかり〝禁煙〟の文字が目立つようにはってあるのに…。私はとても腹が立ちました。きっと周りの人も同じ気持ちだったのだと思います。

私を含む車内の人達はブーイング。その行為に対して意見しました。「しっかり〝禁煙〟て書いてあるんですけど。」「人の迷惑考えなさいよ。」口調はもっと悪かったかもしれない。でも、他にもまだ言いました。たくさん。ところがその人は全く反省の色などなく、それどころか私達に向かって「なにや？　もう一べん言ってみろ。」と。禁煙の車内には灰皿などあるはずもなく、その人はタバコの灰を床に落としながらおどすようにどなってきました。ちょうどその人の周りに居たのも、意見したのも、中学生ばかりだったのでばかにしていたのだと思います。その人は冷笑を浮かべ、「おれは目が悪いからそんな禁煙なんて文字、読めない。」そう言い出しました。私達はさらに腹が立ち、さっきよりもっときつく荒々しい口調で批判しました。しかし、いくら私達が言ったところで相手は見下し、聞こうともせず、ムダでした。私達の態度も良いとはいえなかった。しかし、先に指摘されるような行為をとった男性が悪いように思えて。その人はついに、私達が降りようというその時までタバコを吸うことをやめようとはせず、最後までわめくように言葉を発し反論し続けました。あげく、その人は吸ったタバコを床に落とし、それを踏み消しました。私達はあと何をすることも出来ず、ただそれを見、電車を降りました。みんなロ々に文句を言っていましたがそこまでです。後に残ったのは、相手にされていなかったあのくやしさと、非常識な行為をとったあの男性への怒りと腹立たしさだけでした。

今になって冷静に、あの一件を思い起こしてみると、あの時、明らかに周りの人は迷惑していました。喫煙者には、しっかりとマナーを守ってもらわなければ困ります。吸う場所、周囲の人のことを考え気遣うべきです。さきほどの喫煙者。あの人の捨てたタバコを始末するのは、一体誰ですか？

そして最後に健康問題。害があ